

並行在来線の経営問題などで活発な議論

県交通政策局長招き、3市議会が合同研修会



上越地方の糸魚川市、妙高市、上越市の3市議会の合同研修会が14日、糸魚川市ヒスイ王国館で行われました。今回は新潟県交通政策局の坂井康一局長を講師に、北陸新幹線と並行在来線現在の状況について学

びました。講演と質疑では、新幹線貸付料返還をめぐる最新の動きなどが明らかにされました。また、3市議会の特別委員会の活動報告も初めて行われ、とても有意義な研修会となりました。

北陸新幹線と並行在来線問題は上越地方3市共通の重要課題です。並行在来線会社が経営をスタートさせてから30年間に膨大な赤字をかかえる予想がある中で、県知事が主張しているように新幹線貸付料の返還・還元が行われるかどうか、上越地方の2つの駅に新幹線がどれだけ停車するかなど注目すべきことがいくつもあります。

このうち、新保副議長は、「新幹線貸付料のなかには並行在来線の赤字分も含まれている」として県は国に返還を求めているが、県の考

えていく方向で（事態は）動いているのか、あるいは動きそうなのか」など5点を質問しました。これに対して坂井局長は、貸付料の返還については、「何らかの形で国が支援策を打ち出してくれるものと確信している」とのべました。また、経営分離に伴って、JRが資産買い取りを求めているのはおかしいのではという質問に、「一括在譲渡という言葉が無限定に聞えて、心配している方もあるかも知れないが、あくまでも並行在来線に必要な部分を精査する」ということで対応していく」と答えました。ピントはずれているものの、一括譲渡を否定した

点で重要な答弁だったと思います。

研修会後は恒例の交流会でした。ここでは開催地である糸魚川市の市議会の積極的な対応が話題となりました。開会前に大糸線の美しい風景が映像で紹介され、大糸線をテーマにしたフォークソングも会場に流されました。また、最近、注目されている「糸魚川ブラック焼きそば」を多数の市議者がイメージキャラクターの「ブラック番長」とともにアピールしました。

糸魚川に来たお客を大事にし、糸魚川を売り出す、この姿勢と行動は3市議会研修会の歴史を変えるものとなることでしょう。



【カエルの合唱】竹細工が盛んです。先日の吉川文化展に出品された竹細工のなかで注目した作品のひとつがこのカエルです。竹の節を活かして、歌っているところをうまく表現してありました。制作したのは、畠山清治さん。

びました。講演と質疑では、新幹線貸付料返還をめぐる最新の動きなどが明らかにされました。また、3市議会の特別委員会の活動報告も初めて行われ、とても有意義な研修会となりました。

北陸新幹線と並行在来線問題は上越地方3市共通の重要課題です。並行在来線会社が経営をスタートさせてから30年間に膨大な赤字をかかえる予想がある中で、県知事が主張しているように新幹線貸付料の返還・還元が行われるかどうか、上越地方の2つの駅に新幹線がどれだけ停車するかなど注目すべきことがいくつもあります。

研修会の中での坂井交通政策局長への質疑（写真）では、糸魚川市議会の新保副議長、上越市議会の平良木議員など5人が質問に立ちま



上越地方で初、吉川高等特別支援学校で開校式

新潟県立吉川高等特別支援学校の開校式が12日、同校体育館で行われました。

県教育委員会の武藤教育長は式辞の中で（草間教育次長が代理として出席し、式辞を代読）、「本校は上越地域では初の高等特別支援学校。地域で育ち、地域に愛され、地域とともに歩む学校として期待されている。校章の四つ葉のクローバーのように心を合わせ、ご支援くださいますようお願いいたします。生徒のみなさんは、教育目標の『夢を持ち続け、みんな輝く』のように、希望を持ち続けて輝いてください」と呼びかけました。

式典では同校の校歌も披露されました。池田功明治大学教授の作詞、横山広一さん作曲です。私のホームページで当日の校歌の合唱を聴くことができます。ぜひお聴きください。

春よ来い

第一七九回

夢を持ち続けて

一月一二日はとても暖かい日となりました。日射しを受けて赤とんぼが楽しそうに飛び交う姿を久しぶりに見ました。何となく気持ちが高ぶったこの日、新潟県立吉川高等特別支援学校では開校式、学習発表会が行われました。

同校の生徒は今春入学した一五人だけです。入学式だけでなく、毎月一回実施しているスマイルカフェなどで何回か生徒を見ているので、何人かの顔を憶えました。スマイルカフェの時、窓際で大きく息をしたあの生徒は元気だろうか。顔を赤らめていた生徒、眉毛の太い生徒はどうしているだろうか。春以来、出会った生徒の顔を思い浮かべながら、学校へ行きました。

学校へ着くと、来賓控室になっている二階の作業室に案内されました。ここは何回かスマイルカフェの場所になったところですが、控室に入るやいなや、生徒の一人が「おはようございます」と元気に声をかけてくれました。指定された場所に着席すると、今度は別の生徒がコーヒーを持ってきてくれて、「ごゆっくりどうぞ」とすすめます。さらに、「こちら、きょうの資料とお土産となっております」と紙バッグを渡してくれました。半年余りの間に、言葉遣いや挨拶の仕方がこんなにもうまくなるとはびっくりしました。

さらに驚いたのは、式典の資料とお土産が入ったバッグの中身を見た時でした。オレンジ色の紙バッグを見ただけでも、「おっ、これは喫茶店で使ったエプロンと同じ色だ」と感心していたのですが、お土産として入っていたものの中には、厚紙を組んで作った「ハッピーサークル」、スマイルカフェで使ったコーヒーの豆粕を再利用して脱臭剤にした「スマイルデオドラント」があったのです。いずれも生徒が手づくりしたもので、「使っているみなさんがいつもハッピーでいられますように」などといった手書きのメッセージが添えられていました。

さて、開校式。校旗の樹立式や来賓の祝辞などが終わってからの、生徒全員による「喜びの言葉」と演奏に注目しました。大きな声で「仲間と出会い、先生方と出会い、私たちは学ぶ喜び、認められることの幸せを感じています。必要とされる人となるため、どんなことにも積極的に挑戦していきます。私たちは夢をあきらめません」と力強く宣言した後、岡村孝子の「夢をあきらめないで」を見事に演奏したのです。

キーボードをしっかりと見つけ演奏する生徒、ドラムをたたく生徒は後列。前列にはギターを弾く生徒が並びました。足を組んでギターを弾く男子生徒の顔は自信に満ちていました。生徒の演奏を初めて聴いた保護者や来賓席の人たちだけでなく、職員のみなさんもじっと聴き入っています。保護者席には若いお母さんに抱っこされていた小さな男の子もいましたが、この子も目を動かさないうで聴いていました。演奏は一人の生徒が大きくジャンプして終わりました。その瞬間、演奏した生徒全員に大きな拍手が送られました。

学校は生徒の夢を実現する場。夢を持ち続けて、それに向かって努力するなかでこそ楽しさや笑顔が生まれます。午後からの学習発表会では、保護者や地域の人たちが大勢見守るなかでバンド演奏やダンスが行われました。髪形を三角にしてはじける生徒もいれば、首を振り、リズムに乗って踊りまくる生徒もいる。会場では手拍子が出て、生徒も教職員も観客も一体となりました。

夢を持ち続ける生徒が今後どんな成長を見せてくれるか楽しみになってきました。



コンサート、いきいきふれあい市賑わう

原之町の福正寺で12日に行われたコンサートは「旅の音楽家丸山祐一郎とこやまはるこの世界」。丸山さん夫婦は飯山市在住の音楽家です。

音の出る様々なものを使って、聴衆にも参加してもらうなかで音楽を楽しむ。こういうコンサートは初めてでした。私もホースを振り回し、風の音を出して演奏に参加しました。紙飛行機を飛ばす中で「風」をテーマにした演奏を聴くというのも初めて、子どもたちはほんとうに楽しそうでした。写真は雷の音、雨の音、カエルの鳴き声を聴衆に受け持ってもらい、「カエルの歌」を演奏しているところです。

「いきいきふれあい市」は地域活動支援事業を活用した取組です。原之町町内会長の小山さんから「ぜひおいで下さい」と誘われ、出かけてきました。

地元の農産物が売られ、餅つきがあり、トン汁のサービスもありました。私が注目したのは、小浜屋さんのちんころ作りの実演と指導(写真)です。大勢の子どもたちが関心を持ってちんころ作りに挑戦していました。子どもたちから、伝統的なものにこうしたイベントの中でふれてもらうのはとてもいいことだと思いました。

一月一二日はとても暖かい日となりました。日射しを受けて赤とんぼが楽しそうに飛び交う姿を久しぶりに見ました。何となく気持ちが高ぶったこの日、新潟県立吉川高等特別支援学校では開校式、学習発表会が行われました。

同校の生徒は今春入学した一五人だけです。入学式だけでなく、毎月一回実施しているスマイルカフェなどで何回か生徒を見ているので、何人かの顔を憶えました。スマイルカフェの時、窓際で大きく息をしたあの生徒は元気だろうか。顔を赤らめていた生徒、眉毛の太い生徒はどうしているだろうか。春以来、出会った生徒の顔を思い浮かべながら、学校へ行きました。

学校へ着くと、来賓控室になっている二階の作業室に案内されました。ここは何回かスマイルカフェの場所になったところですが、控室に入るやいなや、生徒の一人が「おはようございます」と元気に声をかけてくれました。指定された場所に着席すると、今度は別の生徒がコーヒーを持ってきてくれて、「ごゆっくりどうぞ」とすすめます。さらに、「こちら、きょうの資料とお土産となっております」と紙バッグを渡してくれました。半年余りの間に、言葉遣いや挨拶の仕方がこんなにうまくなるとはびっくりしました。

さらに驚いたのは、式典の資料とお土産が入ったバッグの中身を見た時でした。オレンジ色の紙バッグを見ただけでも、「おっ、これは喫茶店で使ったエプロンと同じ色だ」と感心していたのですが、お土産として入っていたものの中には、厚紙を組んで作った「ハッピーサークル」、スマイルカフェで使ったコーヒーの豆粕を再利用して脱臭剤にした「スマイルデオドラント」があったのです。いずれも生徒が手づくりしたもので、「使っているみなさんがいつもハッピーでいられますように」などといった手書きのメッセージが添えられていました。

さて、開校式。校旗の樹立式や来賓の祝辞などが終わってからの、生徒全員による「喜びの言葉」と演奏に注目しました。大きな声で「仲間と出会い、先生方と出会うため、どんなことにも積極的に挑戦していきます。私たちは夢をあきらめません」と力強く宣言した後、岡村孝子の「夢をあきらめないで」を見事に演奏したのです。

キーボードをしっかりと見つけ演奏する生徒、ドラムをたたく生徒は後列。前列にはギターを弾く生徒が並びました。足を組んでギターを弾く男子生徒の顔は自信に満ちていました。生徒の演奏を初めて聴いた保護者や来賓席の人たちだけでなく、職員のみなさんもじつと聴き入っています。保護者席には若いお母さんに抱っこされていた小さな男の子もいましたが、この子も目を動かさないうで聴いていました。演奏は一人の生徒が大きくジャンプして終わりました。その瞬間、演奏した生徒全員に大きな拍手が送られました。

学校は生徒の夢を実現する場。夢を持ち続けて、それに向かって努力するなかでこそ楽しさや笑顔が生まれます。午後からの学習発表会では、保護者や地域の人たちが大勢見守るなかでバンド演奏やダンスが行われました。髪形を三角にしてはじける生徒もいれば、首を振り、リズムに乗って踊りまくる生徒もいる。会場では手拍子が出て、生徒も教職員も観客も一体となりました。

夢を持ち続ける生徒が今後どんな成長を見せてくれるか楽しみになってきました。

保倉地区で初の議会報告会 参加者数は60人を超え、活発な質疑



一定の議論が行われましたが、今回の報告会では、委員会で焦点となった問題にしばって常任委員長報告が行われる等の改善がありました。一步前進です。

保倉地区での議会報告会では、9月議会で大きな問題となった厚生産業会館（仮称）建設問題や地域事業費見直し問題だけでなく、保倉地区で大きな課題となっている保倉川放水路建設や農村部での人口減少と学校統廃合などについても参加者から発言がありました。直江津地区の工業地帯で水害の危険性が解消されないと大きな企業が撤退する可能性があり、その影響は4～5万人にも及ぶとの発言もありました。



【3市議会交流会で出されたブラック焼きそば】

カラーで紹介できないのが残念です。おいしかったですよ。

市議会主催の議会報告会が15日、保倉地区で開催されました。同地区での開催は初めてです。参加者は60人を上回りました。

これまでの議会報告会については、「常任委員長の報告に工夫が必要だ」「もっと大勢の人たちに参加してもらい、初参加の人も発言できるように」など改善が求められていました。議会の各派代表者会議などで